

学校点描

三者面談で記入いただいた学校経営に関する保護者のアンケートをまとめています。

《M中学校》

NO. 10 H28. 12. 22

担当：教頭

三者面談お疲れ様でした。数字だけでは現れない子どもの頑張りや、今後の伸びしろなどが話し合えたとしたならよかったです。面談の控室に、図書委員会主催の本の帯コンクールを展示をしていましたが、なかなか面白い作品が並んでいました。賞には2年生3年生から2人ずつ選ばれました。この4人には、私の方から文庫本を進呈いたしました。市内の書店で夜遅くまで4人それぞれに合った本を選びました。相当悩みましたね。

いよいよ今年も残りわずかとなりました。決して平穏な日々だけではありませんでした。生徒間トラブルも数々ありました。LINEを使ったトラブル、言葉で相手を傷つける行為、物の紛失等、その全てにおいて他者への想像力に欠ける行為が根底にあります。こういうときは法律やルールを楯に原則を強化するだけでは、生徒の心には響きません。安心な学校づくりの難しさがここにあります。

自由にたどり着くには

♪人が溢れた交差点をどこへ行く？ 似たような服を着て、似たような表情で

(サイレントマジョリティ：給食の放送で流れる曲から)

「みんなは音楽が好きですか。昼に放送で聞いた歌も、オペラもみんな音楽です・・・」

昨日は、バリトン歌手の深瀬 廉さんが来校し、歌のコンサートを全校生徒で聞く機会を得ました。演奏していただいた9曲の合間合間に、中学3年生の時にすでに音楽の道に進もうと決心したこと、東京藝術大学に入学することが難しかったこと、大学院に行ってドイツのベルリンに留学して、もっと音楽を極めようと勉強したことなどを語ってくれました。イタリア語やドイツ語のオペラに、最初は不慣れだった生徒たちもどんどんその世界に吸い込まれていきます。

♪十五で姐や（ねえや）は 嫁に行き お里のたよりも 絶えはてた

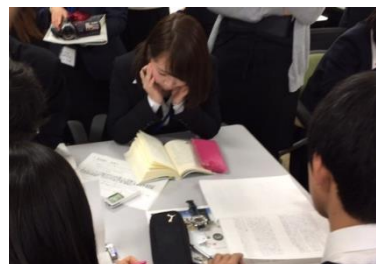
(赤とんぼ：3曲目の演奏曲)

18日の日曜日は山形大学に行って、『人が学ぶとはどういうことなのか』について、高校生40名、大学生30名、一般参加者60名で考えるシンポジウムに参加しました。このシンポジウムはここ3年間継続して行われています。”「よく遊ぶ」動物は学習能力が高い”という資料を与えられ、参加者全員が読み込んで、グループに分かれて自分の意見を語り合います。ここでいう遊びの定義は「その活動がなんらかの別の目的を達成するための手段ではなく、それ自体が目的である」としか言いようのない自発的な活動」とされました。目の前の高校生と大学生は、学校の授業のように強制的な環境が整ってしまうと遊ぶ感覚が失われるのでは、なんて語っています。

わたしが面白かったのは、与えられた資料の中に『けんかをする』ということの意味について述べられた文章です。子どもたちが遊んでいるとき、しばしば「けんか」が起きる。そういうとき大人（保護者や保育士）はどう関わるべきなのか、それは大変難しい問題なのだという内容です。

大阪のある保育所での幼児の生活がNHKスペシャルで2003年に放送された、その内容の分析です。

力の強いリクト君はちょっとしたことですぐに手を出す。とくに気の弱いコウヘイ君に対して



すぐになぐりつけ泣かせてしまう。しかも謝りもしない。あるときリクト君がいきなりコウヘイ君をなぐりつけたのを見た保育士は、たまりかねて所長代理の市原さんにバトンタッチします。市原さんは、ふたりに「いつもと反対の立場になってみなさい」と言う。つまり、コウヘイ君がなぐる立場、リクト君がなぐられる立場になれということです。コウヘイ君には、もっと自分の意志をはっきり出すように諭し、リクト君にはなぐられる方の身になってみることを促したのです。

20 分間、ふたりは何の言葉も交わさず、ただモジモジしているだけでした。ようやく、コウヘイ君は超スローモーションでリクト君のほっぺたを「なぐる」。市原さんは小さく「あ〜あ、痛くなかったかなあ」とリクト君にささやいて一応ことは終わります。翌日の保護者懇談会で、前日のできごとをリクト君の母親に説明したところ、ああそうだったのかと納得したという話だったのです。

「昨夜寝るときに、リクトが突然“オレ、生まれてけえへんかったほうがよかった”と言い出したんです。“えっなんでやの?”と聞くと、“オレ、おこられることばかりしかできえへん。すぐひとがいやがることやってしまうんや・・・”と言いだしたの」と話してくれたのです。市原さんは「ああ、これで確実にリクトは変わる」と確信しました。

ここに人が学ぶことの大切さがあります。学びとは、起きた出来事に対して、第三者（大人、書物、経験）がどのような視点や論点を与えるかで生まれるものなのです。遊ぶことは、時に不自由さを抱えます。しかし人は学ぶことで自由になれる。学ばなければ自由にたどり着けません。「けんかはダメでしょ!」と叱って終わったなら、リクト君の学びはありませんでした。

♪この気持ちは何だろう 目に見えない エネルギーの流れが 大地から伝わって

(春に：会議室に掲示している歌詞)

深瀬さん：「“春に”の歌詞が会議室に貼ってありました。“春に”を歌ったことがありますか？出だしの“この気持ちはなんだろう”という歌詞。明るく希望をもって歌うと思っているかもしれませんが、不安な気持ちで歌うこともある。日本では、このように歌うのだと教えられるが、ドイツでは、“あなたはどんな人を想像して歌うか”と問われる。歌うことは役者のようなものなんです。だから自分で考え自分らしい歌を歌うことが大切だと知りました。ドイツに行って自由になれたのです。」

♪今も聞こえるあの歌 父ちゃんのためならエンヤコラ 子どものためならエンヤコラ

(ヨイトマケの唄：8 曲目の演奏曲)

その後のヨイトマケの歌は、テレビで歌う美輪明宏とは違う、歌手深瀬 廉さん流に解釈された歌声が体育館に響き渡りました。涙が出そうなほど、感動しました。

9 曲目が終わると、3 年生の男子の中から「アンコール！アンコール！」と掛け声が飛び出します。「では最後に、『花は咲く』を全員で歌いましょう」

合唱コンクールの自由曲で『花は咲く』を歌った 1 C の生徒たちが深瀬さんと一緒に大きな歌声でリードしてくれました。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。